



遠大勵志

日報キャビネコンテスト 達下先生 = 第1席

【2/25 岩手日報記事より】

日報キャビネコンテスト2月の課題「冬物語」には、210点の応募があり、岩手日報編集局で審査した結果、5点の入賞が決まった。

第1席・・・達下才子先生 「つかまえた」



(選評)

矢巾町のスミつけ祭りの一コマ。逃げ回る子どもを捕まえ炭を塗る母親の愛情あふれる

表情を捉えた。投光器で逆光になっているが、スピードライトを同調発光して調子を整え、動きを止めた。

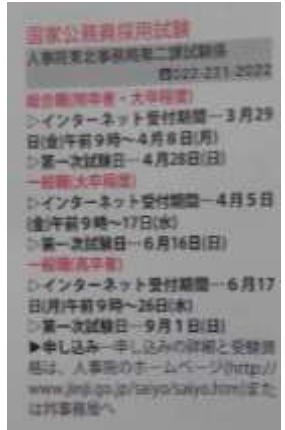
広報きたかみ No.672より

本校の書道部、美術部、茶華道部、写真部が参加した「第19回北上地区高等学校合同作品展」が取り上げられていました。参加したみなさん、改めてお疲れ様でした。

また、公務員試験についても告知がありましたので紹介します。公務員を希望している2年生の皆さんも数名います。まだまだ先の話の



ようにも感じているかもしれませんが、国家公務員の採用試験は、右にもあるように、高卒者の一般職のエントリーは6月17日から6月26日までとなっています。(第1次試験は平成31年9月1日)あと3ヶ月ちよつとでエントリーになります。自覚を持って、対策としての学習も取りかからなければなりません。



肖像戯画 菊地仁美展

週刊朝日2018年12月21日号で、

第36回2018年週刊朝日似顔絵年間大賞に選ばれた菊地仁美さん(本校54回生)。

おでんせプラザグローブ5階「諄子美術館」において、菊地仁美さんが標記の似顔絵展を2月23日(土)～3月23日(土)の期間で開催することを知り、会場へ行ってきました。楽しい似顔絵がたくさんありました！！

【2/23 岩手日日 記事より】

菊地さんは奥州江刺出身。元中学校の美術教諭で、現在は利根川光人記念美術館の専任研究員を務めている。かつては映画スターを描いて映画誌に投稿し、似顔絵は受賞歴を持つほどの腕前となった。一時は遠ざかったが、ここ2年ほどで本格的に再開。2018年の週刊朝日似顔絵大賞では、大相撲の元貴乃花親方を描き大賞に輝いた。

個展は及川諄子館長の誘いで実現。再開以降から個展の開催決定後も書き続けた82点を集めた。体型や顔の一部を強調する箇所は一定ではないにも関わらず、一目でモデルがわかる作品ばかり。テニスの大坂なおみ選手、フレティ・マ・キュリーら18年度に注目を浴びた顔ぶれも見られる。このほか渥美清や吉永小百合ら名優、野球の大谷翔平選手、菊池雄星選手ら郷土の有名人も題材になっている。菊地さんは「テフォルメがしっくりとはまり、役や場面を捉えられると達成感がある。「あの場面だな」と感じて楽しんで」と来場を呼び掛けている。